



[プラス・キュー・エー]  
大学評価室ニューズレター

# +QA 22

[特別号]

Quality Assurance for HOSEI

法政大学総長室付大学評価室

[www.hosei.ac.jp/hyoka](http://www.hosei.ac.jp/hyoka)

## 巻頭メッセージ

### 2015年度国際化に関する外部評価を受けて

副学長・デザイン工学部教授 福田好朗 ..... P.1

### 2015年度 法政大学国際化に関する 大学評価報告書 (経営部門) .....P.2-5

活動報告、編集後記 .....P.6



副学長・  
デザイン工学部教授  
**福田 好朗**

## Message

### 「2015年度国際化に関する外部評価を受けて」

文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援事業 (SGU事業)」に採択されてから2年目の事業を中心に、本学の国際化に関する外部評価が行われた。この1年半のグローバル化の活動は、これからの本学のグローバル化の基礎となる仕組みを作ることであった。グローバル・オープン科目群の設置、英語学位コースの設置、留学生に対応した入試制度などである。また、それらと平行して、学生の外国語教育の充実化や教員の英語授業の研修や職員の研修員制度の拡充など質的な変革もスタートした。その結果として、受け入れ留学生の増加、派遣留学生の増加、協定校の増加などが見られた。

このような活動に対し、評価委員の方々からは、おおむね目標を達成してきており、着実にグローバル化が進んできているとの評価をいただくことができた。これは、関係する多くの学部、研究科や入学センターをはじめとする事務部門がさまざまな施策を進めていただいた結果だと思っている。

一方、評価委員の方々からは、本学のSGU事業の計画は、教育、研究、ガバナンスと多岐に渡った事業が記載されているので、取り

組みやすいものから実施し、本質的、構造的な問題に対する取り組みがおろそかにならないようにしてほしいとの指摘もあった。

また、このような事業では、新しい仕組みを作るだけでなく、現在まで実施してきている教育のグローバル通用性の検証や学生全体の底上げも重要であり、多様性が求められる大規模大学のグローバル化の課題であるとの助言も受けた。

今後、グローバル化を推進していくうえで十分に配慮し、問い続けなくてはいけない指摘、助言であり、グローバル化の実質化に向けての指針でもある。

今回の評価は、大学の国際化の経験のある委員の方々から構成される経営部会国際化評価グループ委員に、評価をしていただいたので、大学、特に大規模私立大学が、今後、どのように国際化・グローバル化していかなければならないのか、何を考えなくてはいけないかを振り返り、さらに推し進めていくうえで良い機会となった。評価に尽力いただいた委員の方々に感謝申し上げる。

最後に、これからも、全学の各部局がグローバル化に向けて積極的に取り組んでいただくことを期待する。



# 2015年度 法政大学国際化に関する 大学評価報告書（経営部門）

今号は特別号として、「2015年度 法政大学国際化に関する大学評価報告書（経営部門）」の全文を以下に掲載します。従来は報告書冊子を作成し部局長のみに配付しておりましたが、本学のSGUを中心とした国際化への取り組み状況を広く教職員に周知するため、今回は報告書冊子の作成は行わず、ニュースレターに掲載し配布しております。なお、あわせて大学評価室ホームページでも全文を掲載しております。

大学に改革が求められるようになって既にかかなりの時間が経過しているが、近年になり、大学改革を求める国や社会の要請は一層強まる傾向にあり、大学自身も18歳人口の減少など取り巻く環境の変化に対処すべく、改革の加速を迫られている。

一方で、学部・研究科等の部局とその構成員である教員、経営・教学両面において重要性を増しつつある事務機能を担う職員を巻き込んで、改革を全学的に推進し、着実に成果をあげることが容易ではない。

このたび、法政大学が「課題解決先進国日本からサステイナブル社会を構想するグローバル大学の創成」をテーマに掲げ、「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択されたことは、大規模私立大学のグローバル化モデルを創り上げることはもとより、真に実効ある大学改革の方法やプロセスを開発・実践し、広く社会に示すという点で、極めて大きな意義を有している。

10年にわたるこの事業を通して、このような目的が確実に実現できるよう、評価を通して、その推進を後押しすることとしたい。

## 1 評価の目的

法政大学では、教学・事務部門各諸単位の自己点検・評価のみならず、経営部門（大学全体）の評価を大学評価委員会の外部委員が行うことで、大学の自主的かつ自律的な改善・改革活動を支援している。経営部門の評価は「大学評価」と「国際化評価」の2点について実施しており、本報告書はそのうちの「国際化評価」に関するものである。

## 2 評価対象

法政大学、学校法人法政大学

## 3 評価方法・評価項目

以下の評価項目について、大学側から提出された資料を評価者が通読した上で、役員・役職者インタビューにより書面では得られなかった情報や役員・役職者の方針・考えを確認することにより、その達成状況および対応状況を評価した。

評価項目ごとの担当者は置かず、下記「5.評価者」に記した委員4名が全項目を評価することとした。

### 【評価項目】

(1) SGUの取り組みの進捗状況について

(2) 派遣・受入れ学生の修学支援について

(3) 派遣・受入れ学生の生活支援および危機管理について

## 4 評価経過

|                |                          |
|----------------|--------------------------|
| 2015年5月9日      | 第1回大学評価委員会 評価計画策定        |
| 2015年5月13日     | 常務理事会<br>評価計画および評価の実施を承認 |
| 2016年2月26日     | 役員・役職者インタビュー             |
| 2016年3月14日     | 評価結果案完成                  |
| 2016年3月14日～17日 | 評価結果案 事実誤認確認期間           |
| 2016年3月19日     | 第4回大学評価委員会 評価結果を承認       |
| 2016年3月23日     | 常務理事会 評価結果を了承            |

## 5 評価者

法政大学大学評価委員会

経営部会国際化評価グループ委員

主査 吉武 博通（筑波大学ビジネスサイエンス系教授  
（前大学研究センター長））

倉林真砂斗（城西国際大学副学長・  
点検評価情報管理部長・環境社会学部教授）

古川 佑子（一般社団法人日本国際学生技術研修協会  
常務理事・事務局長（元独立行政法人日本  
学術振興会ロンドン事務所長、  
元東京理科大学国際センター長））

山田 史郎（同志社大学国際化推進室長・  
文学部教授（前副学長（国際担当）））

## 6 評価資料

### (1) 法政大学国際事業がわかる資料

- 法政大学国際事業概要
- グローバル戦略本部（体制図、委員構成、審議内容）
- 国際事業の実績を示す数値データ（協定数、派遣・受入れ学生数、『短期語学研修』人数推移、『国際ボランティア』『国際インターンシップ』等の人数推移、研究者交流推移）
- パンフレット「HOSEI UNIVERSITY FACT BOOK」
- パンフレット「HOSEI UNIVERSITY ESOP」

### (2) SGUの取り組みの進捗状況について

- 2015年度 SGUロードマップ（進捗状況確認表）

- b. 文部科学省提出「平成26年度 スーパーグローバル大学等事業『スーパーグローバル大学創成支援』構想調書(法政大学)」
- c. 文部科学省からの審査結果「平成26年度 スーパーグローバル大学等事業 スーパーグローバル大学創成支援 審査結果表」
- d. 文部科学省提出「スーパーグローバル大学等事業 スーパーグローバル大学創成支援 平成27年度フォローアップ調査票(法政大学)」
- e. パンフレット「GO GLOBAL HOSEI」
- f. パンフレット「HOSEI University English-based Degree Programs」
- g. パンフレット「Global Business Program (経営学部)」 「SUSTAINABILITY CO-CREATION PROGRAMME (人間環境学部)」
- h. パンフレット「Institute of Integrated Science and Technology」
- i. パンフレット「Hosei Global MBA」(専門職大学院イノベーション・マネジメント研究科グローバルMBAコース)

### (3) 派遣・受入れ学生の修学支援について

- a. 留学生の修学支援に関する調書
- b. 各種奨学金一覧
- c. 冊子「外国人留学生ハンドブック2015」
- d. 配付書類「2015 Guide for DDP Students」

### (4) 派遣・受入れ学生の生活支援および危機管理について

- a. 留学生の学生支援・危機管理体制に関する調書
- b. 「海外危機管理対策規程」「法政大学海外危機管理対策規程細則」
- c. 2015年度外国人留学生就職活動支援
- d. 冊子「外国人留学生ハンドブック2015」(再掲)
- e. 配付書類「HOSEI University Koganei Campus Student Guide 2015」
- f. 配付書類「2015年度 交換留学生の手引き」

## 7 役員・役職者インタビュー出席者

佐藤良一担当常務理事、福田好朗副学長(国際担当)  
 松井哲也グローバル教育センター事務部長  
 沖田吉史同事務部グローバルラーニング課長  
 横内正雄学生センター長  
 奥西好夫キャリアセンター長  
 時田秀明学生支援統括本部長  
 田中一平学務部教学企画課長

## 8 評価結果①

「大規模私大グローバルモデルの実現に向けての期待」  
 吉武 博通

### (1) SGUの取り組みの進捗状況について

総長を本部長とするグローバル戦略本部の下に、SGUの取

り組みを全学的に展開するための体制が整えられ、具体的な活動が本格的に進み始めた一年であったと位置付けることができ、各施策とも概ね計画通り進捗していると評価できる。

客観的なデータで確認すると、協定校数は2014年度145校から2015年度187校へ、海外への派遣学生数は当初目標の1,000人を上回る1,055人、海外からの受入れ学生数は当初目標の1,000人を上回る1,043人、短期語学研修参加者数は2014年度63人から2015年度111人、ERP受講申し込み数(実数)は2014年度578人から2015年度853人と、それぞれに着実な増加または当初目標の達成を実現している。

言うまでもなく数値のみで真の成果を測ることはできない。例えば、協定校を増やすことは大切であるが、その数だけでなく、それぞれの協定に基づく交流が如何に実質的意味を持つかという点こそ問われるべきである。このような観点から、それぞれの協定が有効に機能しているか、節目ごとに確認し、実質化するように努めていただきたい。

本事業は、大学のグローバル化だけでなく、それを通じた教育・研究の高度化を目的とするものであり、本学の構想に明記されている施策は極めて多岐にわたり、教育改革の主要施策の多くが構想に盛り込まれている。それらを部局と対話を重ね、合意を得ながら、着実に進めている点は大いに評価できるが、全学的な要請を受けて、部局は取り組み易いものを回答し、全学的にそれを取りまとめるという事例も一部に見受けられる。教育責任を全学と部局でどう分担するかという本質的・構造的な問題に関わるため、容易ではないが、この点が大学改革のポイントとなる点であり、本事業の推進を通して、法政大学に相応しいあり方を追求してほしい。

### (2) 派遣・受入れ学生の修学支援について

日本人学生の留学促進のための取り組みとして、従来から実施されていた留学説明会、「法政グローバルデイ」の開催、留学支援奨学金制度に加えて、グローバル・ポイント制度を導入した。また、留学アドバイジングルームの設置、大学・付属校・近隣地域高校生を対象としたグローバル留学フェアの開催など、多面的な施策の展開を計画している。

一方で、学生数の多さや多様さを考えた場合、英語力の高い学生や海外志向の強い学生など、特定の学生の修学支援になり得るとしても、そうではない学生の外国語能力を向上させ、海外に目を向けさせることが可能なのか、そのためのより掘り下げた検討も必要と思われる。資料とインタビューでは十分に確認できなかったため、次年度以降、引き続きフォローしていきたい。

外国人留学生等の修学支援については、従来から実施されてきた学部留学生対象の「留学生アドバイザー制度」、大学院留学生対象の「留学生のためのチューターによる指導制度」、ランゲージバディ、留学生会、奨学金・授業料減免制度などについて、さらなる強化・充実を図るとともに、新たに留学生・研究者サポートセンターを開設し、ワンストップでのサービス体制を整備することを計画している。

なかでも、留学生の就職支援は、今後一層重要性を増すものと思われる。高度グローバル人材キャリアアドバイザー

の配置など、体制整備を進めつつあるが、キャリアデザインやキャリア支援に特色のある本学の強みを生かして、この点の強化を一層進めてほしい。本学に優秀な留学生を惹きつける大きなアピールポイントとなるはずである。

### (3) 派遣・受入れ学生の生活支援および危機管理について

派遣・受入れとも生活支援および危機管理について、必要な体制・仕組みは概ね整備されていると評価できる。国内他大学の中には、派遣留学生に対するサポートを国際交流部門のスタッフが実にきめ細やかに行っている事例もあり、それらを参考にさらなる充実を図ってほしい。

また、多くの大学において、日本人学生と留学生が分かれて行動し、キャンパス内で十分に交わっていないということが指摘され、私自身も勤務校において、そのことを日々実感している。留学生の増加によりキャンパスのグローバル化が一層促進されるよう、さらなる工夫を期待したい。

## 8 評価結果②

### 「2015年度 法政大学 国際化に関する大学評価」

倉林真砂斗

#### (1) SGUの取り組みの進捗状況について

大規模私立大学のグローバル化に向けた構想は明確で、当初予定に沿って着実な取組みを展開していることが窺える点が評価できる。特に「ERPプロジェクト」は、英語力に応じた教育強化プログラムの一つとして、グローバル教育センターの管理のもと外部委託により効率的な運営をしており、持続的な取組みによる成果を期待する。今後、効果測定を行いながら、適正規模の見極め、全学的な底上げなどが課題になろうかと思う。また、全学的なグローバル教育の方向付けの中で、英語以外の語学教育をどのように位置付けていくかも期待される場所である。

2016年度に60科目の開講を予定している「グローバル・オープン科目群」については、全学的な受講促進に向けてキャンパス間、学部間の調整を鋭意進めており評価できる。まずスタートを切ることで、英語による授業の教育成果が目に見える形で出てくるものと思われる。また、12単位以上の修得に対して認定証を発行する等の工夫も、2015年度から稼働している「グローバル・ポイント制」の定着促進に繋がるものと思われる。一方で、教員一人ひとりの適切な履修指導がより強く求められることになる。FD等による、さらなる意識共有の徹底をはかり、「グローバル・ポイント制」の登録学生数が飛躍的に増えることを期待する。

さらに、外国人教員・研究員の招聘にも積極的に取り組んでおり、受入れ留学生と併せて、学内グローバル環境の見える化をさらに促進することで、各種プログラムとの相乗効果を高めていただきたいと思います。

#### (2) 派遣・受入れ学生の修学支援について

学生の海外派遣について、学部ごとの支援・指導体制を構築しており、さらに統括部署としてグローバル教育センターが効率的に機能していることも窺え、評価できる。また若手

職員を中心に、現場での対応意識が高まっていることは、今後に向けての有望な動きでありぜひ育んでいただきたいと思います。学部によっては派遣に課題を伴うこともあろうかと思うが、全学的なグローバル教育促進の指標として、学部ごとの目標設定とその達成をおおいに期待する。

受入れ学生のための「外国人留学生ハンドブック2015」は適切にまとめられており、また、英語訳資料も整えており評価できる。留学生への周知徹底にはより手間がかかるが、危機管理の観点からも継続的に工夫を重ねていくことを望む。この点、すでに稼働させている大学院課程のチューター制度を、全学的に拡大・運用していくことも方策の一つではないかと思う。

### (3) 派遣・受入れ学生の生活支援および危機管理について

中国および台湾、ベトナムに海外事務所を設け、積極的な情報発信をしていることは、受入れ後の生活支援、危機管理の観点から重要な取組みとして評価できる。また、国際混住寮に関しては、教育・交流に係る取組みの工夫、成果の公表に期待している。

海外教育プログラムの実施に際し、原則として、教員引率が不要な仕組みを整えられている点は評価できる。一方で、海外での教育成果や問題・課題を、教員がどのように肌感覚で認知し爾後の指導に活かしていくか、という課題も出てくるように思う。派遣・受入れ学生のいずれも、帰国後・卒業後のネットワーク化、およびグローバル教育成果を就職という形で目に見えるようにしていくことは大学共通の課題と言える。全学的なグローバル化推進の柱として、特に経済界、産業界への情報発信、連携等の積極的な取組みをこれまで以上に展開されることを期待している。

## 8 評価結果③

### 「法政大学の国際化評価」

古川 佑子

最近5年間で法政大学の国際化はそれまでになく大きなスケールで展開されており、Super Global University (SGU) 事業に採用されて以降そのスピード感も増している。法政大学がこれまでの歴史と伝統ある大学像に加えて21世紀の大学にふさわしい新しい伝統を開拓され、入試も変わり2011年から外国人学生が増えており、国際通用性と国際競争力を強化される方向で全学的な認識がされておられることは大慶である。

#### (1) SGUの取り組みの進捗状況について

SGUの取り組みは高等教育の国際化について考えられる企画がほとんど盛り込まれており実施開始年度も示されている。そのすべてを実現されるには相当の人員と経費が必要なのは想像にかたくない。現時点ですでに秋入学やクォーター制の導入もされ、インターンシップなどに参加する学生の流動性に対するバリエーションを除く努力をされておられる。奨学金の充実など外国からの学生や日本の学生の国際化に対する支援制度がますます充実される環境が整いつつあり、今後一層の国際化が期待される。

## (2) 派遣・受入れ学生の修学支援について

在留資格が留学である外国人学生のみならず、文化交流ビザなどで入国する短期留学生の増加もキャンパスの国際化に貢献している。また、短期留学生は主として交流協定校からの学生が想定されるが、交流協定校は地域的にも多岐にわたっているため、国際化の質の向上あるいは、国際の多様化も期待できる。

各種留学奨学金が充実しており、日本の学生は安心して海外で学ぶ機会を検討することができる。

外国人教員については語学教員だけでなく、専門分野の教員も多く、また外国人教員比は6.9%であり、教育の国際化がすすんでいる。外国人学生が高度のアカデミックな日本語能力まで達しなくとも、生活レベルの日本語の習得で留学が可能である。

「10年後の法政大学」には受入れ留学生3,000人と記述されている。現在の外国人学生比率は約3.9% (633+67+410/28,937名) である。現外国人学生数1,110名を少なくとも教員比率と同様1,996名、約2,000名以上には早期に達成されたい。海外拠点を活用し、海外で活躍されている同窓生の力も借りながら、海外での学生募集を活性化され、海外での入試のありかたも併せて検討されたい。また、ディグリー学生だけでなく、海外の協定校からの交換学生の受入れ数を増やすこともキャンパスの国際化に貢献するので、さらに進めていただきたい。協定校もこの5年で飛躍的に増えているので期待したい。

一方、外国に行く学生数は短期研修も含め1,055名、これも総学生数の約3.6%である。日本の学生の国際化にさらに取り組まれることを望む。短期語学研修の日本人参加学生については、情報科学部、理工学部、生命科学部の学生参加が少ない。理系学生は実験などスケジュールが過密ではあるが、語学のできる理系学生が国際的に日本に求められている時代でもあり、単位認定なども含め、理系学部の学生の参加を促す制度設計をさらに進めていただきたい。

## (3) 派遣・受入れ学生の生活支援および危機管理について

グローバル教育センターで一元管理する体制を整えられ学生にとっても見えやすく、相談しやすい体制となっている。専門指導教員の負担も軽減されると思われる。危機については年間どれくらいの頻度で対応が必要になるのかわからないが、時差を考慮すると、24時間体制をとっておられることは学生にとって心強い。

留学生ハンドブックは重要な情報が含まれ大変よくできているが、日本語である。相当な日本語力がないとすべてを理解するのはむずかしい。この外国語版(英文)については小金井キャンパスやESOPが発行しておられる。キャンパスの国際化を推進されておられる大学なので、日本語能力の高い留学生だけでなく、多様な留学生が増えることを考えると将来的には全学的に使用される外国語のハンドブックも作成されることを期待したい。

## 8 評価結果④

### 「法政大学の国際化に関する評価所見」

山田 史郎

「サステナブル社会を構想する」とする全体テーマのもとで、留学生の受入と日本人学生の海外派遣の推進、英語による授業・コースの拡充等のグローバル化対応の教育プログラムと教学システムの構築をはじめとして、高大連携と入試改革からFD・SDやガバナンスの国際通用性の向上まで、トータルなグローバリゼーションをめざして真摯に取り組まれている姿に感銘を受けた。今回の評価項目については、SGUの構想調書で明示された計画のいくつかについて実施の遅延がみられるものの、全体としての取組の進捗は順調であると評価できる。派遣・受入学生の修学支援・生活支援・危機管理についても、細やかな態勢が築かれつつあると認める。

学部だけでも15を擁し、自由な思考と体制を尊重する学風のもとで、学術・研究はもとよりスポーツや社会貢献の分野で自立した人材の育成につとめてこられた大学として、どのようなグローバル化が適切かつ必要であるかを世に問う実験的な意義を大学執行部としても強く認識されていることが理解できた。たしかに、挑戦的な成績評価制度や学事暦、あるいはハイブリッド・ディグリー制度などの全学的な実現にむけては学内的なコンセンサスを得るための多大な努力が求められるが、今後も根気強く取り組まれていかれることを切望する。

大規模私立大学の大きな特徴のひとつは、入学生の多様性にあるだろう。基礎学力・リテラシー・自己実現への動機などにおける「ばらつき」は、私大教育全般にとって大きな問題としてある。とくに語学力と切り離せないグローバル化対応の教育においては、ややもすると、一定の語学力を身につけた成績上位の学生を対象としたものになりがちである。このレベルの学生のグローバル化対応力をさらに増進させるプログラムはもちろん必要(ESOPの科目数・受講生数の拡充など)であるが、グローバル化に差し迫ったものをそれほど強く感じない中位から下位の学生の能力や関心をどのように「底上げ」するかも、大規模私大に与えられた課題である。グローバル・オープン科目や課題解決型フィールドワークなどのプログラムが幅広い層の学生を巻き込むことになるとともに、グローバル・ポイント制の周知、混住型国際学生寮の設置、留学生対応の学生ボランティア活動、様々な国際スポーツ・イベントへのボランティア・サポートなどの推進を通じて多くの学生のグローバル・マインドを養う取組を展開してほしい。付言すると、学部レベルではグローバル化への対応力を養成することが諸々の理由で簡単ではない理系の学生への取組も、より一層進めてもらいたい。

最後に、たとえば東南アジアでの事務所増設に関して再検討されているとのことであるが、これをはじめとして、構想調書でかかげながらも、実際に法政大学としてのあるべきグローバル化を採求するなかで見直しが必要であると判断された場合には、思い切って再検討策を講じられることが肝要であろう。ただしその際には、単なる計画の取りやめではなく、それにかわる、より意義ある施策を構築することであってほしい。

以上

## 活動報告

### 2015年度第2回自己点検懇談会 (学部)を開催しました。

- ◆日 時：2016年3月3日(木) 13:00～17:00
- ◆場 所：市ヶ谷キャンパス 九段校舎3階 第1会議室

学部長、教育開発支援機構長を対象とした、自己点検懇談会を開催しました。今回は「学部における修学支援について」をテーマに2部構成で行われ、第1部では本学学生相談室学校医の櫻小路岳文医師の基調講演、学部からの話題提供、第2部では3グループに分かれ、グループディスカッションが行われました。



櫻小路岳文医師の講演



グループディスカッションの様子

### 2016年度自己点検・評価活動に関する 説明会を開催しました。

- ◆第1回 2016年3月25日(金) 10:00～11:00  
市ヶ谷キャンパス 九段校舎5階 第2会議室
- ◆第2回 2016年3月29日(火) 13:00～14:00(終了予定)  
市ヶ谷キャンパス 九段校舎3階第1会議室

学部長・研究科長等、自己点検運用単位の部局長を対象とした2016年度自己点検・評価活動に関する説明会を開催しました。なお、今回は多くの方に参加いただけるよう、説明会を2回開催しました。事務局から2016年度自己点検・評価活動の概要や自己点検書類の作成方法、スケジュール等の説明が行われ、実質的な2016年度の自己点検・評価活動がスタートしました。

### 2016年度第1回自己点検委員会を 開催しました。

- ◆日 時：2016年4月28日(木) 15:00～15:30
- ◆場 所：市ヶ谷キャンパス 九段校舎3階 第1会議室

2016年度第1回目となる自己点検委員会が開催されました。佐藤良一自己点検委員会委員長より2016年度自己点検・評価活動に関わる基本方針や規程の改正等について説明が行われ、



自己点検委員会の様子

審議・承認されました。あわせて、大学基準協会に提出する改善報告書や認証評価に関わる省令の一部改正等について報告が行われました。

### 第19回大学評価室セミナーを 開催しました。

- ◆日 時：2016年4月28日(木) 15:30～17:00
- ◆場 所：市ヶ谷キャンパス 九段校舎3階 第1会議室

今回は大阪大学全学教育推進機構准教授の佐藤浩章氏をお招きし、「3つのポリシーにおける一貫性構築の意義と方法」をテーマにご講演いただきました。法令の改正により、3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)の策定と公表の義務化、中央教育審議会による3つのポリシーの策定及び運用に関するガイドラインの公表を受け、



佐藤浩章氏の講演

性を持ったポリシーへの見直しが行われるところであり、本学関係者にとって大変有益なものとなりました。

## 編 | 集 | 後 | 記 |

今号からニューズレターのデザインが変わりました。これまでのデザインと比べていかがでしょうか？さて、今号では国際化に関する評価結果を掲載しております

が、SGU事業の一環として夏にTOEICを受験することになりました。これまで何度となく英語の勉強にチャレンジしては挫折を繰り返してきましたが、もう1回

頑張ってみる時が来たようです。が、また挫折するかもしれません…何か良い勉強法があればどなたかアドバイスをお願いします。(坂本)



2016年6月発行(通巻22号)  
大学評価室ニューズレター No.22

[www.hosei.ac.jp/hyoka](http://www.hosei.ac.jp/hyoka)

**法政大学**  
総長室付大学評価室  
〒102-8160  
東京都千代田区富士見2-17-1  
Tel. 03-3264-9903  
Fax. 03-3264-4077  
e-mail: [hyoka@hosei.ac.jp](mailto:hyoka@hosei.ac.jp)

